日本クリスチャン・アシュラム連盟　秋季号

開心
静聴
充満
献身
奉仕

日本アシュラム

Autumn 1978　United Christian Ashrams of Japan　25

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい家族（単位）の参加を期待している。

WELCOME TO JAPAN
The 3rd International Christian Ashram.
October 4 (Wed) ～ 6 (Fri) 1978, Tozanso.

いよいよ開幕した
第三回国際アシュラム
十月四日―六日　東山荘にて
主題『今日における神の言』

創始者スタンレー・ジョーンズ博士が提唱されて初まった『国際アシュラム』（第三回）が、いよ〳〵十月四日から東山荘で開幕することになった。

ジム・マシューズ博士を初めとして、バーグ委員長ワグナー総務の米国勢とゴードン・ハンター師（カナダ）に約四十名の参加者が大挙、太平洋の空を飛んで十月一日（日）午後四時成田空港に着陸する。インドからはアシュラム発祥地サトタルからタイタス師が、また欧州各地のアシュラムを指導されているニールソン師（スエーデン）が来られる。韓国、台湾からも数名の参加があるはずで、文字通りグローバルな主にある兄弟姉妹の交わりの場が実現しようとしている。

まず私共日本側は心から彼らを歓迎しよう。そして共に過す三日間に、どうか主イエス御自身がこの集いの中に御臨在なさって、一人一人の心を開き霊を注ぎ、全くきよめて、主の器として下さるように祈りを一つにしよう。

『イエスを主とする』真のクリスチャン・アシュラムを守り、人種、国境、社会的地位、性別を超えて、初代教会のコイノーニヤ（霊交）を現実に体験し、神の国のヒナ型を見たいものである。またその間に諸外国の教会事情やアシュラムについて教えられ、ともすれば独善的になりやすい私共の信仰生活とアシュラムを正しくされる好機としたいものである。そして更にわが国キリスト教会にリバイバルが起るように聖霊の充満を頂きたいものである。

このようなニード（必要）をもって期待しつつ参加しようではないか。

○

会場・東山荘本館

第三回国際アシュラムの日程

▼第一日　十月四日（水）
○歓迎レセプション（正午）斉藤記念館
出席者は海外参加者　連盟理事
八地区委員その他約百名
○開会礼拝（三時）司会　海老沢宜道
○開心の時（四時）司会　タイタス
夕　食（六時）
○讃美と証しの時（七時）海外三名
○福音の時　（八時）司会　ハンター
○祈りの細胞（九時）各分団十名位
（司会）中村武、松田浄、植村俊雄、後宮俊夫、中路嶋雄、満丸茂、内村サムエル、平方美代、杉田常夫、海老沢宜道、渕江淳一、武井啓治、谷本清、横山義孝、村上束、山根可弍、萱沼孝文、寺井俊健、菊池いう、宇都宮充

▼第二日　十月五日（木）
○静聴の時（七時）司会　ニールソン
○朝　食（八時）
○聖書の時（九時）司会　マシューズ
○徹夜祈祷（十時～翌朝七時まで）

編集人　海老沢宜道
発行人　大石嗣郎
定価　一部50円　〒50円

山根可弍著
『アシュラムの恵』（百円）

黙想

『今日における神の言』

理事長　海老沢　宣道

『言は肉体となり、私たちのうちに宿った。私たちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、恵みと真とに満ちていた』
（ヨハネ福音書一章十四節）

○

第三回国際アシュラムをわが日本において守ることができるようになったことを、何よりもまず主に感謝いたします。第一回（一九七二）第二回（七四）から大分遅れて漸やく聖地、インドに次で日本開催となったからです。次回は世界で一番多くのアシュラム（年々四十数ケ所）を開いている北米で守りたいものです。

さて故スタンレー・ジョーズ師は、インドを本拠として六大陸の至る所に大衆伝道を展開されましたが、同時にアシュラムと訪問伝道とを推進されました。

その理由は何でしょう。大衆伝道は特別の能力を与えられた器が無ければできない方法です。しかしともすれば伝道とは大衆相手に大伝道会を開くことであり、また有力な教職の専門事業であって一般の教職や信徒はできないこと、ただ立派な説教や講演を伺って感心して帰る傾向を生じました。

また伝道協議会とか教師研究会とか信徒修養会というものが、各地で催されますが、そこでは神学教授の研究発表とか、熱心な教師の伝道方策についての講演とか、聖書論や祈祷論についての座談会とかが行なわれています。これらは知的向上には相当役立つことではありますが、ジョーンズ師がよく言われたように、『言は言として終り、肉体となって宿らない』危険がありました。

そこで何とかして『神の言が主イエスにおいて受肉し、聖霊の実が結ばれ、教会が誕生したように、今日においても神の言が全ての信徒に教会に実を結ぶようになる道はないものか』と祈り求めていたジョーンズ師に、啓示されたのが、クリスチャン・アシュラムであり、そこから出かけて行く訪問伝道であります。

この二つの道には有力で特別の才能ある大先生がいなくとも、一同が心を低くして『イエスを主と仰ぎ』その御指導の下に、聖言と祈りに深く徹するならばできることであります。

つまり聖書研究ではなく、聖書を通して主イエスの御声を聴くことであり、祈祷の必要を説くのではなく、主イエスとの霊交を体験するのがアシュラムです。

旧約をひもとくとき、栄枯盛衰の激しい歴史を貫いて、神の御計画が着実に進められてきたことを示されます。『草は枯れ、花はしぼむ。しかし我らの神の言は永遠に変ることがない』とイザヤが言った通りです。

また主イエスが『おのれを空しうして僕のかたちを取り、十字架の死に至るまで従順であられた』時代から今日まで、世界は天変地異の激しい歴史を辿ってきましたが、『天地は滅びるであろう。しかし私の言は滅びることがない』と言われた通り、主イエスの御言は永遠の真理であります。従って私たちは、ただに主の御教えを学ぶだけでなく、生命として受取る必要があります。

パウロは『キリストの言をあなたがたのうちに豊かに宿らせなさい』と言いましたが、その意味は多くの聖句を暗記することではなく、受肉させることです。『イエスを主と信じる』だけでなく『主を知り』更に『『キリストを得る』ことであり、ついに『キリストのうちに自分を見出すようになる』ことです。クリスチャンとはこのように生きる者であるとすれば、もはや『我もなく世もなく、ただ主のみ居ませり』の境地に至るはずです。信仰に入ったと言っても自己中心に考えたり、この世の名誉や地位（肩書）を喜んだりしているのは、全てを主に明け渡しておらず『言が肉体となって』いない証拠です。

私たちは個人としても生れつきの本性や生涯の間にこびりついた汚れや穀をかなぐり捨てて、『新しく生れなければ神の国を見ることはできない』のです。私は今日もいくつかの団体や事業の理事や委員をしていますが、アシュラムによって新生してからは、名刺には小さな教会の牧師以外一切の肩書を書かないようになりました。

二千年の歴史を通して教会にも様々な思想が生れ、分派が出き、わが教会を誇り、非聖書的伝統がこびりついています。それらを洗いきよめられ、使徒行伝の初代に立ち帰る時、主の言が肉体をとって宿る生命に溢れた教会へと再生復興することでしょう。その時そこに、主の栄光を拝することができ、今日の時代に対しても生ける神の言となることができるのではないでしょうか。

（ロマ書十章九節）

○福音の時（十時半）司会　バーグ
○中　食（正午）
○労作の時（一時）
○自　由（二時～六時）富士登山、その他、見学、入浴など。
○夕　食（六時）
○讃美と証しの時（七時）アジア三名
○福音の時（八時）後宮俊夫（予定）
○祈りの細胞（九時）第一夜同様
○徹夜の祈り（十時～翌朝七時）

▽第三日　十月六日（金）
○静聴の時（七時）聖餐式を守る。
○朝　食（八時）
○聖書の時（九時）司会　マシューズ
○充満の時（十時半）司会　中路嶋雄
○中　食（正午）閉会式、散会。

以上のプログラムは国際委員会により多少の変更をすることがある。会場での報告に御注意下さい。

アシュラムの五大原則

（一）　キリストへの明渡し

紹介

故スタンレー・ジョーンズ博士夫人
メーブル・L・ジョーンズを偲ぶ

（N・S・E　記）

アシュラムの創始者スタンレー師が、あのように全世界に伝道の聖戦を展開することができた背後に、有力な内助者のあったことを知っている人は少ない。

今回はその博士夫人メーブル姉を偲びつつ紹介することにしょう。

メーブル姉は今年四月八日に満百才の誕生日を迎え、一人娘（マシューズ夫人）たちから祝福を受けたが、日を同じくしてメリーランド州ゲイサスバーグ市の合併百年祭があり、市長、助役、市議会議長から皿と額を贈られた。彼女は淑やかな婦人で自分を人前に出すことをしなかったが、その一生は教育家として、宣教師、カウンセラーとしても、すばらしい働きをした上に、信頼に値する人物であった。五年前に博士を天に送ってから腰痛のため、娘の家に近いワシントン州で静かに余生を過されていたが、六月二三日安らかに眠るが如く天に帰られたのである。

一、教育者として

彼女はアイオワ州クレイトンに生れた。十八才でその祖先の村の学校の教頭に任命されて教育者としての第一歩をふみ出した。僅か二十ドルの月給であった。その村はミシシッピー河畔にあり、かつては通商で繁昌した港であったという。

二六才の時宣教師として渡印し、中央インドのカンドア女学校で教えたが、一年足らずで校長の責任を負わされた。

数年後、他の婦人宣教師と交代するためにラクナウのイサベラ女学校に移ったが、その町で牧師兼宣教師のスタンレーと出会い結婚することになったのである。

二人は結婚後もそれぞれの仕事を続けることにしたが、彼女は人口四万のシタプールに移り、今度は男子二校の責任を与えられた。ここはヒンヅー語と全く違うウルドウ語で、教えるためには、それを学ばなければならなかった。

折角教え導いた女学生たちが、結婚相手を探す時、教養あるクリスチャンの男子が少なく、教育のある未信者へ嫁ぐのを知った時、彼女は男子の教育に力を入れる決意を堅め、女教師が喜ばれなかった時に、彼女自身が教師を養成して、ついに全校の教師を婦人教師にした所、多くの学校、殊にキリスト教系の学校が彼女の試みに習った。ガンジーはこの計画を知って彼女を賞讃し感謝したと言う。それから二五年間、彼女はガンジーと文通を交わす友となった。彼女はまた多くの新聞雑誌に教育に関する論文を執筆、インドの教育界を啓蒙した。

二、宣教師として

メーブル姉がなぜインドへ渡ることになったか。それは彼女が村の教員をやめ貯えた月給を学資にアイオワ大学で勉強中、インドからきた一婦人の講演を聞いて非常な関心を持ち、質問をした所、ぜひ教師として来てくれとの招きを受けたことによる。二六才でメソジスト教会の宣教師として承認され、直ちに出発、四十年以上を有力な宣教師として送ることになった。彼女とインド人との関係は互に愛と尊敬に満ちていたが決して感情的ではなく、厳しい規律ある指導をした。到着早々恐ろしい飢饉が全土をおそい町にも村にも餓死者が続出した時、彼女は馬車を出して、死んだ親の手に残る赤坊や幼児を集めてきて、ミッションで養育することや、死体を片づけ埋葬する仕事をしたという。

彼女は聖書だけを説く型ではなく、間接方法で伝道をした。常に興味を感じそうな本を用意して、読みたい未信者の誰にでも貸出した。学校の重責を負いながら、小さなインドの村では時に医療の仕事もした。休暇に非衛生な家庭に帰った子供たちが、持ってきたのか、疫病で四〇名の生徒が目の前で倒れ死んで行った時は、政府の医者と談判し、救急看護に奔走した。

また彼女は農業を学び、全生徒を養なう食糧を生産したばかりか、余分の作物は市場に出して学校の維持を助けた。シタプルの男子学校の校舎もまた彼女の勇敢な建築設計によって出きたものである。彼女はまたインド滞在中から引退後も米国の友人から奨学金を集め、数千人の生徒の学費を援助していた。

三、カウンセラーとして

明るく、親しみやすく、良い聴き手である彼女は老若を問わず、英印の役人、商人、宣教師たちの友となり相談相手になった。従って種々な団体の委員になるように求められた。

シタプール地方管理委員会は二一名の委員中に、彼女は唯一のクリスチャンで女性で、非インド人であった。キリスト教徒でないインド人からも非常な尊敬を受けていたのである。他の委員はイスラムとヒンヅーとの各十名であった。これは彼女がクリスチャンとして良心と確信に従って問題を決定する証しの機会となったのである。

四、信頼に値する人物

彼女は祖先のルーツをよく知っていて英国のコーンウオールからカナダに渡来

（ビリビ書　第二章　十一節）

（三）聖霊の啓導と充満
（四）神の国の体験と献身
（五）教会への奉仕と伝道

した開拓者の子孫であり、伝来の信仰を誇りとしていた。それは父方からクエーカー派の静かに強い信仰を、母方からメソジスト派の活動的な信仰を受けたのだがこの両者を調和させ結合させるのは、むつかしいことではなかったろうか。

娘のマシューズ夫人が、母をアイオワから引取る時、蔵書の中に、トマス・アケンピスの『キリストに倣いて』がありサインと日付によって彼女が二十三才の時に愛読したことが判った。傍線を引いている箇所の一・二を見よう。

『他人の欠点や短所が、たとえどんな程度のものであっても忍耐強く耐えることを努めよう。あなた自身もまた他人に耐えて貰わねばならぬ多くの弱点を持っているのだから』

『もしあなたが望むような人間に自分をすることができないなら、どうして他人に自分と同じようにすることを期待できようか』

『私の母はこのような人でした』とジョーンズ博士の一人娘マシューズ夫人は言っている。八〇才の時、故郷の州政府が彼女を表彰した時、アイオワ大学からも人文学博士の学位を贈られた人である。

各地での歓迎プログラム

今回の国際アシュラムに海外から遠路を遙々わが国を訪れる数十名の兄姉を心から歓迎して四日のレセプションの他、左の三地区で特別集会が開催される。

◉関東地区歓迎信徒大会

時・十月二日（月）午後六時半
所・市ケ谷、救世軍エバンゼリンホール
司会　横山　義孝
挨拶　海老沢宣道
紹介　大石　嗣郎
立証　米国と日本（各一名）
合唱　淀橋教会聖歌隊
伝道説教　ジム・マシューズ師
独唱　黒田　四郎
献金　池本金三郎

◉中国地区歓迎晩餐会

時・十月八日（日）午後六時半
所・広島ステーション・ホテル
引続き流川教会（谷本牧師）にてミニ・アシュラムを開催。
電話〇八二二（二一）三六六五番

◉関西地区歓迎会

時・十月九日（月）午後四時
所・扇町教会
（連絡先・辻中昭一）
電話〇六（三一二）三九八一番
引続きミニ・アシュラムを開き、バーグ、ニールセン、タイタス諸師のメッセージを受ける予定。

海外参加者の旅行日程

九月三十日（土）ロス発日航六一便
十月一日（日）午後四時、成田着
京王プラザホテル滞在。

同　二日（月）東京都内見学、打合会
　後六時半、救世軍市ケ谷ホール
同　三日（火）日光見物、夕刻帰京
同　四日（水）第三回国際アシュラム
同　六日（金）午後、新幹線で京都着
　ギモンド・ホテル滞在
同　七日（土）京都、奈良を見学
同　八日（日）午前、平安教会にて朝拝
　午後、新幹線で広島着・駅ホテル
　歓迎会と夕拝、広島流川教会
同　九日（月）午前広島市内、宮島廻り
　午後、新幹線で大阪着、歓迎会
同　十日（火）午後、韓国ソウルへ飛ぶ
十一日（水）韓国教会指導者との会合。
十二日（木）一日アシュラムを守り、十四日香港行、十五日朝拝を各教会で守る
十六日ハワイ着、翌日一日アシュラム。
十八日ハワイ発、十九日帰米。

国内各地アシュラム

第三回国際クリスチャン・アシュラムにおいて受けた溢れる恵みを、参加者一同はそれぞれの地区、各教会に持ち帰り不幸にして参加することのできなかった多くの同信の兄弟姉妹たちに、分ち合う（シエアリング）の機会を作るように心がけて頂きたいものです。

東北地区、関西地区では十一月末に、四国地区、関東地区でも日時は未定乍らその機会を得たいと願っています。東京城北アシュラムは例年通り、新年早々に冬季一日アシュラムを計画しています。

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付

参加者が何度でも読むべきもの
『アシュラムとは何か』（50円）

酸素・各種ガス・溶接機・器材販売
(株) 泰平酸素商会
代表取締役　三室泰平
本社（132）東京都江戸川区船堀6-2-12
TEL 03（688）3333

船堀朝禱会（於本社）毎週木曜7時

最新刊
海老沢宣道著
アシラュムの原則と実際
定価300円　〒60円
クリスチャン・アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が，『日本アシュラム』紙上で約20回にわたり，平易に解説してきたものが今回小冊子にまとめられた。各地区で参考書として活用されたい。
日本クリスチャン・アシュラム連盟